



まほろん通信

VOL. 1

(平成13年7月15日発行)
(財) 福島県文化振興事業団
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
福島県白河市白坂字一里段86
TEL 0248-21-0700(代)
FAX 0248-21-1075
URL <http://www.mahoron.fks.ed.jp>

ご あ い さ つ



館 長 藤 本 強

日本学術会議会員
東京大学名誉教授
新潟大学教授

福島県文化財センター白河館（愛称「まほろん」）は県南の白河に21世紀のはじめの年の7月に開館します。福島県内で行われた埋蔵文化財の発掘調査の成果を広く県民の方々に理解していただき、あわせて今では忘れられたいろいろの古代の技術を多くの人に体験していただくことを主な目的にしています。また、発掘調査によって得られた遺物などを収納・保管し、必要に応じ広く公開する役割も兼ね備えています。

埋蔵文化財の調査の成果は一般の人々にはわかりにくい性格をもっています。これは資料がそれまでにわかっていたことと比べないと何も明らかにできないという性質があるからです。出てきたモノの時代や役割を知ることは比較的簡単ですが、モノをどのように使ってどんなコトをしていたのかになるとたいへんに難しくなります。「まほろん」では出てきたモノの役割を考え、わかりやすい形で展示するように努力していきます。

現代はすべてがたいへんに便利になっています。便利になると毎日の生活で工夫する機会、個人の暮らしの上での力は減少します。また、自然に触れることもたいへんに少なくなっています。古代のさまざまな技術を体験することによって古代に触れ、自然に親しんでもらうとともに、個人個人の非常時の暮らしの力を高めてもらえればと思っています。

「まほろん」で昔の技術に触れ、暮らしの力を高めましょう。



常 設 展

展示室に入ると、まず「森」が現れます。私たちの過去を育み、そして未来を育んでくれる森です。

森を出ると、突然、ちょっと昔へタイムスリップ。お父さんやお母さんが子供だった頃の茶の間のようです。どんな茶碗でどんなおかずを食べていたのかな？ どんどん過去へ行きましょう。江戸時代、室町・鎌倉時代、平安・奈良時代、古墳時代、弥生時代、縄文時代、旧石器時代へとさかのぼりましょう。住まいと食卓、器と食べ物は、今とどのように違うのでしょうか？

次は、いろいろな時代の道具を見てみましょう。遺跡から出土した道具の一つ一つが、作られた当時のように復元されています。石の斧と鉄の斧はどちらが切れるかな？ 青銅の鏡はどんなふうに映るのでしょうか？ ラッキーな人は、古墳時代の豪華な飾りをつけた馬に乗れるかもかもしれません。

開館記念特別展

忙しいスケジュールの合間をぬって「はにわ一座」のスターたちが、まほろんの開館を祝して特別出演!!

主役をつとめる神谷作101号墳の貴公子をはじめとするはにわが勢ぞろい。ダンスチームやバンドもやってくる。

さらに貴重な舞台衣装や小道具の展示もあるよ。

君はもう「はにわ一座」を見たか。さあみんなでまほろんへ行こう。



特別展記念講演会のご案内

「はにわ一座がやってきた」記念講演会
演題:「はにわ人と持ち物」

様々な形をしたはにわとはにわたちの持ち物について、杉山先生がわかりやすくお話ししていただきます。

8月19日(日) 午後1時30分～3時

講師:杉山 晋作先生

国立歴史民俗博物館助教授

場所:まほろん講堂

先着60名まで。

お申し込みは不要です。

※ 講演後、特別展示室にて杉山先生が展示解説をしていただきます。

「みんなの研究ひろば」では、考古学や歴史に関わる研究をいつでも募集しています。あなたの研究も展示してみませんか？

このほか、パソコンやビデオなどでも県内の文化財をたくさん紹介しています。



**「はにわ一座が
やってきた」**
7月15日～9月2日



第2回特別展のご案内

第2回特別展「復元！三角縁神獣鏡」

これはいったい何でしょう？ 答えは「鏡のウラ」の一部です。鏡といってもガラスの鏡ではありません。古墳時代という時代の、青銅（銅とスズの合金）で作られた鏡です。金属をピカピカにみがくと、ものを映すことができるのです。

まほろんでは、会津若松市にある大塚山古墳という全長114mの古墳から出土した鏡を当時の作り方で復元しました。三角縁神獣鏡は「卑弥呼の鏡」との説もある重要でナゾの多い考古資料です。

どうして昔の鏡の作り方がわかるのでしょうか？ その手がかりは鏡のウラ側にかくされています。そのナゾをとくため、多くの研究者が鏡のウラ側を研究しています。そのヒミツを、まほろんの特別展で公開します。

シリーズ復元展示

三角縁神獣鏡の復元 その1

三角縁神獣鏡とは

魏志倭人伝(正確には三国志魏書東夷伝倭人条)に次のような一文があります。「景初三年(西暦でいうと239年)、邪馬台国の女王卑弥呼が使いをよこし、金印や銅鏡百枚をこれに授けた」。この「銅鏡百枚」の有力な候補と考えられているのが三角縁神獣鏡です。

考古学者がこの鏡に注目するのにはわけがあります。それは、三角縁神獣鏡には他の鏡には見ることの少ない特徴をたくさんもっているからです。そして、そのもっとも大きな特徴といえるのは、一個の鋳型から複数の鏡を生産する「同範技法」という方法によって生産されたものがあるらしいということです。そして、同じ鋳型から作られた「同範鏡」が、初期の大型古墳が多く築造された奈良盆地を中心として全国に分布します。つまり初期大和政権がこの鏡を全国に配布していたのではないかと考えられています。

三角縁神獣鏡のナゾ

銅鏡は鋳造製品です。鋳造とは、鋳型の中に高温で溶かした金属を流し込み、冷えたところで鋳型から製品を取り出す、という金属製品を作る技術の一つです。同範技法によって作られた製品は、鋳型のわずかな傷までもが同じものができ、鋳造を重ねるごとにその傷が大きくなっていったりする様子が鋳出されます。出土した鏡

を観察することで、それがどのような方法で作られたか、また鋳造された順番まで推定することができます。



ところで、一つの鋳型から複数の鏡を鋳造することは本当に可能なのでしょうか。鏡の観察

から「同範技法」が存在するらしいことは何人かの研究者によって予想されているものの、この技法が技術的に可能かどうかは、これまで誰も確かめたことがありませんでした。実際、同範技法は技術的に無理だと考える研究者は多くいます。

三角縁神獣鏡を復元しよう

さて、まほろんにおける展示のテーマの一つは、昔の道具を昔の技法そのままに復元する、というものです。もののカタチを復元するだけでなく、失われた技術をも復元しようという試みです。そのリストに三角縁神獣鏡も加わりました。三角縁神獣鏡のナゾの一つでも解明できればと考えたからです。まだ誰も確かめたことのない「同範技法は可能か？」という問題を確かめる機会は、こうして生まれました。(つづく)

体験学習

まほろんでは、次のような体験メニューを用意しています。

まほろん古代体験

体験活動室で行う、どなたでも参加できるメニューです。次のようなメニューを2週間ごとに交換して行います。予約の必要はありません。

① 勾玉をつくろう (材料費400円)

勾玉は縄文時代からあるペンダントです。

※ 勾玉づくりは一年中やっています。

② いろいろな土器にさわってみよう

土器や石器にさわって、その手ざわりや重さを感じてみてください。

③ 古代の衣装、アクセサリーをつけよう

縄文時代から江戸時代までの様々な衣装と装飾品を試着して、記念写真でもいかがですか。

④ 火おこしに挑戦してみよう

火より汗がでることが多い体験です。

⑤ 土器の模様をうつしてみよう

「拓本」で縄文土器の模様を写します。

⑥ 縄文の布を編もう

カラムシの繊維からつくった糸を、アンギン編みという方法で布にします。

団体メニュー

団体のお客様の場合、次のメニューからご希望のものをひとつ選んでいただけます。

1 いろいろな土器にさわってみよう

2 火おこしに挑戦しよう

3 勾玉づくり (材料費400円)

4 縄文の布を編もう (材料費300円)

※ 4は、アンギン編みでコースターくらいの布をつくってお持ち帰りいただけます。

・それぞれの体験に必要な時間は1時間程度です。

・おおむね40名を越える団体の場合2班、60名なら3班に分かれていただき、展示見学と体験活動をローテーションして行いますので、全体で2時間程度の滞在時間をお取りください。

団体予約について

・20名以上の場合、団体としてご予約いただくことにしています。原則、1ヶ月前までにご予約ください。

・予約は電話でも結構ですし、お問い合わせいただいた方に「団体利用申込書」をファックス等でお送りしています。

・お客様に具体的な日時をご提示いただいた段階で予約状況を確認し、空きがあれば予約が確定します。

・予約状況はまほろんのホームページでご覧いただけますのでご参照ください。

研修課より

文化財研修スタート！

まほろんでは、埋蔵文化財や無形の文化財の調査技術の向上と保護体制の充実を図るため、文化財研修を行います。受講希望の方を募集しています。

対 象 ①埋蔵文化財・無形の文化財の調査・保護を担当する自治体や団体の職員、研究者および教職員等
②当館館長が適切と認める方(学生・調査補助員・発掘作業員・整理員等)

研修内容と日時

文化財研修は、発掘調査研修と館内で行う研修(実測研修など)があります。詳しい予定については、別紙案内または当館のホームページをご覧ください。

申込方法

別紙申込書にご記入の上、各所属機関を通じて、それ以外の方は直接、当館研修課にお申し込みください。申

し込みには推薦者の署名が必要です。なお、ホームページで申込書をダウンロードすることができます。

申込先 福島県文化財センター白河館研修課

*まほろんでは、遺物の実測や写真撮影に関する研修も常時開設しています。遺物整理でお困りの方は、当館にぜひご相談ください。



貸し出し・閲覧・見学などを通して広く遺跡や文化財を知ってもらう機会を設け、活用を進めていきます。

総務管理課より

資料の収蔵・保管と活用

まほろんの広さ 3,000 平方メートルの一般収蔵庫には、約1,450 台の収納棚が設備されています。

ここでは、福島県教育委員会が主体となって発掘調査を行った県内の遺跡からの出土品と、調査の写真や図面などの記録を一括して収蔵しています。さらに、劣化が進まないように保存のための処理を施した木質遺物・金属製遺物などは、温湿度を一定に管理した特別収蔵庫で保管しています。これらの収蔵資料は、常設展示、収蔵資料展など館内での展示で公開するほか、体験学習や研修などにも活用されます。

また、遺跡・遺物・文献・写真など文化財データベースを整備、まほろんのホームページを通じて公開し、



まほろんからのお知らせ

利用ご案内

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は開館し、その翌日が休館) 祝日・休日の翌日(ただし、その日が土、日曜日ならば開館)
入館料 無料(体験学習を行う場合は、材料費の実費をご負担いただきます。)
その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約下さい。

体験イベント募集

行事名	実施日	募集人数	募集〆切	材料費	対 象
体験発掘ツアー	9/2	25	8/10	無料	小学5年生以上
土鈴・土笛を作ろう	9/16・11/14	20	7/31	200 円	小学生以上
古代グルメ祭り	10/7	30	8/20	500 円	どなたでも
縄文の布を編もう	10/21	20	8/31	300 円	小学生以上
古代の機織りに挑戦	11/18	30	9/30	無料	小学生以上
まほろん餅つき大会	12/2	30	10/31	200 円	どなたでも
縄文の楽器を作ろう	12/16	20	10/31	200 円	小学生以上

定期講演会「考古学を語る会」

講 師：藤本 強 館長

第1回 「考古学とはどんなもの？」 9月29日(土)

第2回 「何年前はどうしたらわかる？」10月27日(土)

第3回 「考古学からなにがわかるの？」11月24日(土)

第4回 「人間のきた道はどんなもの？」12月22日(土)

会場：まほろん講堂

時間：午後1時30分～3時

先着100名様 お申し込みは不要です。

